

疏^{そこう}広と疏^{そじゅ}受の父子は士官後、
故郷に帰った。身を引く時の機をみて官職を辞し

兩

りょう

疏

そ

は

機

き

を

見

み

、



※機と同字



※兩と同字



※疏と同字

微

誰かが迫ったものでもなく、機を見ての勇退であった。

組

ひも

を

解

と

きては

誰

たれ

か

逼

せま

らん。

誰

逼

解

※解と同字

組

支

人里離れたところに住み、物静かに暮らす。

索

さく

居

きよ

閑

かん

處

しよ

し、

閑

處

※処と同字

索

居

刪

魚支

世事には口を出さず、俗人と交わらずひっそりと暮らす。

沈

ちん

黙

もく

寂

せき

寥

りょう

たり。

寂

※寂と同字

沈

※沈と同字

寥

※寥と同字

黙

蕭

侵

昔の人の思想を論じたり、

古

いにしへ

を

求

もと

めて

尋

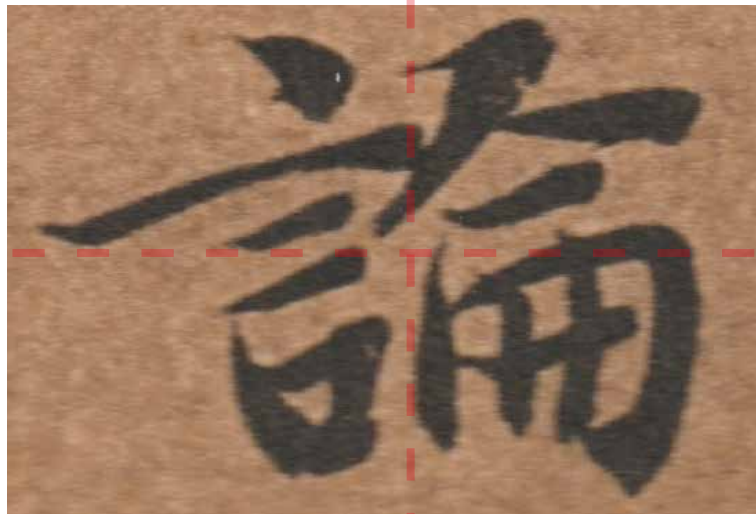
たず

ね

論

ろん

じ、



侵

尤

元真 ●

●

自然の中を心のままにぶらぶらと歩く。

慮

おもい

を散

さん

じて逍

しょう

遙

よう

す。

逍

遙

散

慮

※散と同字

蕭

蕭

喜ばしい気持ちで心が満たされれば、

欣

よろこ

び

奏

あつ

まり

累

わずら

い

を遣

や

り、

累

遣

欣

※欣と同字

奏

支●

文

悩みは憂いは去り、楽しいことが自然に招かれるように集まる。

慮

いた

み

を

しや

して

歓

よろこ

び

招

まね

く。

歓

※歓と同字

招

※招と同字

慮

寒

謝

蕭

渠

きよ

荷

か

は
的

てき

歴

れき

として、

溝には蓮の花が鮮やかに咲き、

的

渠

魚●

歴

※歴と同字

荷

歌●

庭園の草葉は生い茂り、木々の枝は豊かに伸びる。

園

えん

莽

もう

は
條

えだ

を
抽

ぬき

んず。

抽

條

※条と同字

園

※園と同字

莽

尤

元

蕭